

平成29年度第2回大阪府市地方独立行政法人
大阪産業技術研究所評価委員会
議事要旨

- 1 日時 平成29年7月27日(木)午後2時～
- 2 場所 大阪赤十字会館 4階 401会議室
- 3 出席委員 田口委員長、大橋委員、中村委員、西村委員、山田委員
- 4 議事内容

(1) 旧地方独立行政法人大阪市立工業研究所の平成28年事業年度の業務実績に関する評価について

法人より、資料1から4に基づき、平成28年事業年度の業務実績について報告が行われた後、質疑応答、小項目評価についての審議が行われた。

19項目について審議を行った結果、17項目については、法人の自己評価を妥当と判断した。

項目番号3については、法人の自己評価はCであったが、

- ・プロジェクト研究は次世代的なテーマのものが多く、短期間で製品化つながりにくく、企業と連携して試作化までいったものが2件ある。

ことを高く評価し、評価委員会としての評価をBとした。

項目番号16については、法人の自己評価はBであったが、

- ・職務発明認定件数が研修前に比べ1.5倍に増加した。
- ・研究員が大学等に客員教授や非常勤講師として招かれたり、業界団体や学協会から表彰されるなど外部から高い評価を受けている。

ことを高く評価し、評価委員会としての評価をAとした。

<主な意見>

- ・印象として、所員・研究員の数に対して研究テーマが多い気がして、過度の負担になって企業支援に支障が出ていないか懸念される。
- ・限られた人数でいろいろな活動を行っていることは素晴らしい。その中で西淀川区からの要請で市工研OBを技術相談員として派遣するようなきめの細かい取り組みはなかなか素晴らしい。これを大阪府全体に広げてほしい。
- ・企業との連携促進の取組内容について、3つの評価項目に記載されている。確かに新しい試みで素晴らしいと思うが、一事例の評価としては多いという印象を受けた。
- ・職員の能力向上で一生懸命されていて、技術の伝承・継承も含めて留意されていると思うが、それも記載されてもいいのではないかと思う。

- ・事業収入が目標にわずかに届かなかった理由として、「法人の直面する重要課題に精力を傾注せざるを得なかった」と記載されているが、他の項目にも影響があったのではないかとわれ、この項目にだけ記載されていることには違和感がある。関西広域連合区域内企業への市内料金適用の影響で十分説明できるため、記載する必要はないと感じた。

(2) 旧地方独立行政法人大阪市立工業研究所の第二期中期目標期間の業務実績に関する評価について

法人より、資料5に基づき、第二期中期目標に係る業務の実績について報告が行われた後、質疑応答及び審議が行われた。

各年度の評価結果は数値目標だけでなくプラスアルファも加味されているので、その結果は尊重して、機械的に評価して委員会案とし、次回の委員会で確認、修正していきたい。

<主な意見>

- ・評価項目1で自己評価がすべてBで、4年間の評価がAというのは、違和感がある。
- ・評価項目8で技術者養成事業への職員派遣件数が27年28年で大幅に増えていて、非常に努力された結果だと思う。

(3) 旧地方独立行政法人大阪市立工業研究所の第二期中期目標期間終了時における組織・業務全般の検討について

大阪市から資料6に基づき説明があり、委員会として特に意見なし

(4) その他 特になし

以上